## ～楽しく学べる散策ガイド～

# 魅力がいっぱいの「郡上八幡」

- Ryukyonosato-All rights reserved.

# ■「水との共生」をはかる町民の暮らし

郡上八幡は「水のまち」と呼ばれていますが、それは清流吉田川が町の中心を流れていることだけではなく、町民が水を大切に扱い、水との共生をはかってきたことにもよります。ここでは町に残る名所からそのポイントを探っていきましょう。

## ■水船

町民が生活の中で水をうまく使ってきた一例として右の写真のような **水船** の利用が上げられます。これは水槽を段々に重ね、上の水槽から下の水槽に水が流れる仕組みになっています。上の水槽の水は **飲料水** に、下の水槽では **野菜** などを洗うのに使われました。こうして同じ水を大切に使いまわす仕組みができ上がっています。

## ■いがわのこみち（用水）

郡上八幡のまん中には吉田川を水源とした用水が東西に流れています。この用水を見れるのが「いがわのこみち」ですが、ここでも町民は水を大切に使ってきました。右の写真の場所は **「洗場」** と呼ばれ、ここでは野菜を洗ったり、**洗濯** をしていました。今でもこうした「洗場」を大切に守ろうという町民の意識は高く、洗場ごとに **「洗場組合」** という組織が作られ、その人たちの名前を表札に掲げ自主的に洗い場を大切に守ってきました。

## ■宗祇水

町内の湧水地として有名な宗祇水は、1985年（昭和60年）に環境省が選定した **「日本名水百選」** の第一号に選ばれた場所として有名です。もともとこの場所は文明３年（1471年）に当時の２大歌人「飯尾宗祇」と「東常縁」が歌を詠んだ史跡でもあります。

この場所でも「水船」と同様な仕組みを見ることができ、上段の水槽から「飲料用」 **「米等洗場」** 「野菜等洗場」 「さらし場」 として町民は水を大切に使い分けてきました。

- Ryukyonosato-All rights reserved.

# ■郡上踊り

郡上八幡と言えば夏のシーズンに行われる「郡上踊り」が有名です。この踊りがどんな踊りで、何故有名なのかを解説します。

**■400年の歴史と共に歌い踊り継がれる「郡上おどり」**

7月中旬から9月上旬まで延べ2か月間31夜に渡って開催される郡上踊りは「日本で一番 **長い** 盆踊り」と言われ、この期間に延べ30万人の観光客が訪れます。
また郡上踊りは徳島県の「阿波踊り」、秋田県の「西馬音内盆踊り」とともに **「日本三大盆踊り」** の一つに数えられています。

**■郡上踊りの特徴**

郡上踊りの最大の特徴は観光客が「見る踊り」ではなく、「 **踊る** 踊り」であることです。観光客が自由に踊りの輪に加わり踊ることができます。
これは江戸時代に城主が **士農工商** の融和を図るため、身分に関係なく無礼講で踊ることを奨励したためで、現在でもそれが伝統となっています。

**■踊り好きが集う**

郡上踊りはその曲目が多いのも特徴で、代表曲である「かわさき」をはじめその種類は全部で **10種類** あります。踊りの上手の方には「郡上おどり保存会」から **免許状** が公布されます。審査の曲目は当日発表され、会場の屋台に掲げられます。
「郡上踊り」が最も盛り上がるのは８月のお盆の4日間で、この時の踊りは **「徹夜踊り」** と呼ばれ踊り手は夜明けまで踊り明かします。

- Ryukyonosato-All rights reserved.

# ■郡上八幡城

郡上八幡という町はお城と共に栄え、町の発展とは切っても切り離せない存在でした。ここでは、郡上八幡城の歴史やエピソードを交えながら要点をおさえていきましょう。

## ■郡上八幡城

郡上八幡城は永禄2年(1559年)に遠藤盛数が八幡山の上に砦を築いたことが始まりです。明治4年(1871)の **廃藩置県** とともに廃城となり、石垣を残して取り壊されました。
現在の城は昭和8年(1933)に再建され、木造4層5階建の天守閣等は郡上市重要文化財に、一帯の城跡は県史跡に指定されており、**木造** の再建城としては日本最古のお城です。また「水の町」らしく、城から見る城下町は **魚** の形をしており偶然が生んだいたずらとも言えます。

## ■およし物語

戦国時代の合戦などで八幡城の大修理を行う時期がきました。多くの人々の努力により修理が行われましたが、急斜面の工事は困難を極めたそうです。
この時に神路（かんじ）村のおよしという女性は、進んで石運びに加わり、人々に勇気を与えた上、遂には自分の身を捧げてこの城を守ろうと心に決めて、 **人** 柱となって地中に入ったそうです。美しい乙女の魂が城を守り抜いたというかなしくも美しい物語があり、現在はおよし観音として、城内に奉られています。

## ■赤髭作兵衛の伝説

城の改修工事の際、領内釼（つるぎ）村の「赤髭作兵衛」という男が重さ **350** キロもの巨石を一人で担いで運び上げたそうです。それを見た普請奉行が褒め称えたところ、作兵衛は感激のあまり卒倒して息絶えてしまいました。これを哀れんだ奉行はこの巨石を工事に使わせなかったため、昭和8年の天守建設工事の際に、放置されていたこの巨石が発見されました。
この石は **「力石」** と呼ばれ今でも城内に展示されています。

- Ryukyonosato-All rights reserved.

# ■古い町並み

郡上八幡城を眼下に望む城下町として栄えた郡上八幡には現在でも町並として伝統や名残が生き続けています。ここでは古い町並みに残る名所からそのポイントを探っていきましょう。

## ■古い町並み

郡上八幡には２つの古い町並みが現存しています。

１つ目の通りは職人町と **鍛冶屋** 町　。その名の通り医者・大工といった職人や鍛冶屋が住んでいた町です。

２つ目の通りは柳町。こちらは侍町として栄えました。

これらの町並みにある家屋の間口は狭く、奥に長い造りになっていて「 **鰻** の寝床」とも呼ばれます。間口が狭い作りは、かつて家の間口の長さによって税金を徴収していた時代があったことの名残と言われています。

隣家との境に **袖壁** があるのも特徴です。この壁は家屋を支えるとともに、**火事の延焼** を防ぐ目的があります。古い町並みのある郡上八幡の北町は２度の大火事にみまわれていることもあり、防火意識には非常に高いものがあります。家の軒下に **消火用バケツ** が吊り下げられていることからもその意識の高さがうかがえます。

## ■御用用水・柳町用水

職人町・鍛冶屋町にある道路と家の間を流れる「御用用水」は寛文年間（1660年頃）に郡上八幡城主の遠藤常友が **防火** の目的のため４年の歳月をかけて築造したものです。また柳町には 御用用水と平行して流れる「柳町用水」があります。

２つの用水路では各家庭が持っている **せぎ板** と呼ばれる板を水路にはめ込んで水位を上げて、洗い物をする、打ち水をするなどという水の利用をしています。

水路はその町毎に当番制の掃除で大切に管理され、町民の生活と密接に関わっています。

- Ryukyonosato-All rights reserved.

# ■その他町のみどころ

今まで紹介した場所以外にも郡上八幡には数々の見所があります。ここではメディアでも紹介されるそんな見所をご紹介します。

**■新橋（飛び込み）**

小さい頃から夏は川で泳ぐのが当たり前となっている地元の子供たちの楽しみは大きな岩から飛び込むこと。岩から飛び込むことに慣れていき、最終的には橋の上から飛び込む子供もいます。
橋からの飛び込みで有名なのが「新橋」「学校橋」です。
特に「新橋」の水面からの高さは **12** メートルあり、ビルの **5** 階のベランダの高さに匹敵します。

**■やなかの小径**

新町商店街から稲荷町に抜ける玉石を敷き詰めた路地が「やなか水のこみち」です。脇には水路が流れ、子供たちの恰好の遊び場ともなっています。「郡上八幡」の名前に因んで使われた玉石の数はなんと **8万** 個で、長良川と町内を流れる **吉田** 川の自然石を使っています。

**■食品サンプル**

郡上は食品サンプル最大手の「岩崎模型」発生の地であったことから、食品サンプルの販売・体験が盛んです。食品サンプル作りは色のついた溶けた **ロウ** を、**お湯** の中に流し込むことで作ることが出来ます。誰もが簡単にできる体験として旅行者の方には大変人気があります。

**■旧庁舎記念館**

町の中心にある趣を感じさせる建物は、以前までは **郡上八幡町役場** として使われていました。現在では国の登録文化財の指定をうけています。

- Ryukyonosato-All rights reserved.